



「里山と炭焼き」 雑木林応援隊

〈雨宮 廣之〉

〈白い煙を上げる炭屋〉

焼き始めたばかりの状態です。

写真では匂いは伝わりませんね。

観察の森の木々も色づき、高い秋の空に白い煙が似合う、そんな季節となりました。第一駐車場に車を止めて、ドアを開けるとすぐに匂いで気がつくかも知れません。そろそろ炭焼きのシーズンに入ります。今から炭材(今回は竹炭を予定)と薪の準備をしますが、予定している期間は3日間、現状の窯サイズで、竹炭が焼ける最低必要日数と考えています。炭焼きと聞くと「のんびり」をイメージされる方も多いかと思いますが、結構やるのが沢山あります。一番大変なのは、やはり準備で、炭材、薪の切り出しと運び出しは、重労働となり、秋・冬でも汗ばむ程度です。昔は、里山の木々を利用し炭を焼き貴重な燃料として使用していましたが、今、炭焼きをする理由の一つは、燃料として必要なためは無く、整備で切り出した木や竹を有効に利用する事となっています。神無月で有名な出雲大社の参道にある黒松の樹勢が衰えたため、その再生に炭が活躍した・・・との新聞記事を見たことがあります。この様に、役に立つこの理由で、里山が利用される様になれば、整備のための整備で無く必要だから整備される・・・そんなサイクルが出来れば良いと考えています。

観察の森入口に向かって左側の雑木林は、ホダギの置き場所として利用されているため、綺麗な雑木林が維持されています。こんな里山の利用方法がやはり理想かと、雑木林を見て思います。

楽しみたい人が整備をする。やはり、炭焼きを楽しむんでいる応援隊が整備をする・・・これは自然な流れでしょう。

秋晴れの一日を、炭窯に薪をいれて過ごす事の楽しさは、経験した事の無い人には分かりません。でも、誰でも簡単に経験出来ますよ。一度炭屋をのぞいてみて下さい。



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。



先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！



アヤメ園今年最後の仕上げ
坂 弘毅（アヤメ園受託事業責任者）

牛久観光アヤメ園管理業務受託から三年、努力の甲斐が実り、六月には約一万株のハナシヨウブが満開になり多くの来園者の目を楽しませました。あれから半年が経過し来年に向けた最後の仕上げの時期に入っています。

今年のアヤメ園のトピックスは、①ハナシヨウブの満開、②圃場の拡張（一〇〇〇㎡）、③圃場の水路に絶滅危惧種のメダカとタニシ、更にはアカガエルやトウキョウダルマガエルが大繁殖したことです。農薬も使わない、殺虫剤も使わないという本来の姿に戻してから三年、荒廃した環境は本来の姿に戻り、徐々にではありますが、小さな生き物たちの桃源郷になりつつあります。小さな水路には、童謡に出てくる「メダカの学校」のように、大小様々なメダカが群れをなす姿に来園者の視線を釘付けにしました。そして、ハナシヨウブの敵の脇からは、絶滅が危惧されている、ミズワラビ、ムシクサ等々、他では見られない野草も次々と発芽し、自然の回復がはじまったことを知らせてくれました。これら予想以上の結果を招いたわけですが、一つ残念なのは、オニバスを復活させることができなかったことです。開園当初、沼の埋め立てに伴う攪乱で湖底に眠っていたオニバスが開花して注目を浴びましたが、わずか数年



で消滅してしまつた経緯があります。里山の会として、オニバスよもう一度とばかりオニバスの復活を願い、アヤメ園中央の二つの池で挑戦しました。厳冬の二月から三月にかけて、胴長を着て池の中に胸まで浸かり、ヘドロとの戦いは決して楽なものではありませんでした。池の底の泥を攪乱したことにより、オニバスの発芽を宝くじを当てるような心境で待ちましたが、今年はその兆候すら見せませんでした。当然来年度も挑戦するつもりです。

ハナシヨウブのシーズンが終わつてから五ヶ月、アヤメ園の作業は除草との戦いが続いています。双六のように一通り終わつて振り出しに戻ると、そこは再び雑草に覆われた荒れ地に変わっていました。イボクサ、キシユウスズメノヒエ、イヌヒエ等々、強烈で個性の強い雑草ばかりですが、立冬を過ぎてそれら雑草にも生育の衰えを感じるようになりました。あとちようど一月で

今年の作業は終わります。が、この時期の丁寧な作業が来春の雑草の発芽にも影響が出るため、慎重に除草作業が続いています。



巨木リサーチ事業報告
猪野 年郎

樹高グループに参加して

うしく里山の会の仲間にさせていたで、かれこれ六カ月近くになります。渡辺代表をはじめ、多くの仲間の方たちに助けられて、巨木リサーチの樹高グループの一員として、楽しい時間を過ごしています。

巨木リサーチ事業に参加してまず驚いたことは、牛久市内に神社やお寺が大変多くあることです。こんなにたくさんあるのかとの思いがしました。もちろん大きな神殿があるものや、小さな建物があるものなどさまざまです。風雨に晒され凸凹になった分厚い床板や、ところどころしか読めない絵馬など、時間の経過した建物を見るのも楽しみです。巨木のリサーチでこれらの社寺の周辺の巨木なり古木の調査をする、本来この地域を郷土としていない樹種が見受けられます。このような樹木に出会うと、植栽したであろう氏子さんや檀家の方たちの思いにふれ、また、違う意味での思いを感じます。

このメンバーに参加したおかげで、私の知らない牛久をたくさん知ることになり、うれしく思っています。チャンチンの出狸（デシヨウジヨウ、開葉時の葉色が美しいモミジの園芸品種）のような紅色の幼葉とともに得月院も覚ええました。秋にタケノコを出す四方竹（四角竹）と出会ったのも得月院でした。まだまだ知らない牛久に出

会えると思うと、また楽しくなります。樹高測定といっても、中々思うに任せません。トゥルーパルスという測定器具を使って樹高を測定するのですが、測るたびに答えが違います。「当たらずとも、遠からじ」の測定値かとは思いますが、測定の技術や測定器具の取扱方法が未熟なのかもしれない。技術を磨いて、正しい樹高の測定ができるように頑張りたいと思います。

十一月四日の日曜日には、牛久正源寺など5個所の社寺で、ヤブツバキ・コブシ・イロハモミジなど9本を測りました。秋晴れに恵まれ心地よい環境での楽しい調査でした。途中柏田神社のイイギリの実を見に立ち寄りました。たくさん赤く熟した実が、澄んだ秋空に映えて素晴らしくきれいでした。所期の目的を達成し、午後三時二十分散会しました。



・タイトル：トゥルーパルスによる樹高測定
・撮影者：増田
・撮影月日：07.11.4

今月の古木・希少木
No.8 モチノキ

山形・宮城県・琉球に分布し、県内では北部に少なく県南・海岸地域で普通に見られます。牛久では牛久沼の東斜面林他でスダジイやシラカシの下層の亜高木層に自生し、シロダモやヤブツバキと同じ生態的位置を占めています。また社寺の境内や旧家の屋敷には庭木の古木が多く見られます。雌雄

異株で雌木には写真のような径約1cmの赤い果実が秋に熟します。現在はモチノキより実の小さい同じ仲間のクロガネモチの方が庭木として愛好されています。名前は樹皮などから鳥もちを作ったことに由来します。鳥もちは春夏の頃、樹皮を剥いで外皮を除き、二・三か月水に浸けて腐らせ、臼でつき砕いて水で洗うと、赤褐色をした高級アルコールエステルの鳥もちが残るそうです。この物質は鳥や虫の捕獲の他、絆創膏の添加物などに利用されます。刈込に強



果実

く実が美しいため庭木に使われる他材は緻密で狂いが少なく光沢が美しいため、ろくろ細工や印材などに利用されます。

(渡辺 泰)





牛久自然観察の森

斉藤 孝

連絡調整会議報告

去る十月十七日水曜日、午後一時三十分より三時まで、ネイチャーセンターにおいて牛久市役所担当課との連絡調整会議が開催されました。牛久自然観察の森からは石神園長と斉藤チーフの2名が出席、牛久市建設部緑化推進課からは山口課長と柳下副主査が出席しました。(連絡調整会議は四半期事に行われ、施設の利用状況報告や修繕計画についての調整を行っています)

今回の会議では、担当課より今年度中の施設修繕計画の日程が提示されました。具体的には、ネイチャーセンター内多目的トイレの修繕(ウオッシュレット化)が三月実施、アウトドア対応車椅子の納品が一月(ネイチャーセンター無料貸出の野外対応型車椅子。現在は主に室内使用目的の折りたたみ型車椅子を無料で貸出しています)等となっています。

また、荒天時における倒木処理等での連携体制についても協議が行われ、指定管理者の協定及び実施基準に基づいた措置を講じることが確認されました。

次回の連絡調整会議では、指定管理者三年目となる平成二十年度の計画及び予算についてが議題となる予定です。



雑木林応援隊活動報告

雨宮 廣之

「炭屋奥の物置」

秋になると雑木林応援隊は、炭焼きのシーズンに入ります。

応援隊の活動で、コジケイの林の管理(間伐と下草刈り)、ムジナの里での竹林管理(間伐と下草刈り)が本格化します。夏場の竹は、まだ水分が多く、切った竹も腐り安いため、秋から冬にかけて伐採するもの、同様に木の間伐も樹勢が落ち着く冬場が良いと言われています。

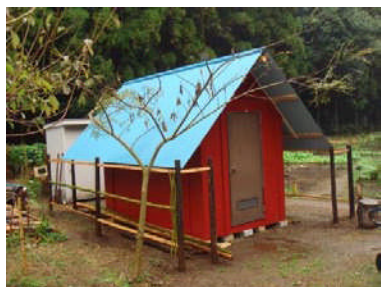
そんな理由で、間伐材や竹で炭焼きを始めるのが、今頃という訳です。

十数年前に炭窯を作り、窯を守るために屋根を掛けましたが、屋根の下が格好の物置場所となっていました。又、梅林奥の畑も、4プロジェクトの人達が利用しているため、色々な道具の置き場所が必要となり、出来合いの物置を買って建てましたが、実際に使ってみると、いかにも狭く、更に大きく森に似合う物置の要望が大きくなってきました。

そこで、運営委員会に諮り、何とか低予算で物置小屋を作る事としましたが、強度があつて、そこそこの広さを確保し、なおかつ森に馴染む事が条件となります。外観は、炭屋の屋根と同じ構造と色にすることで、しっくりと風景にとけ込むと考えましたが、問題は、広さを確保し、しかも低

予算で仕上げる必要がある事でした。その解決策が個々の隊員の力でした。

応援隊の活動が楽しい理由は、異業種交流で有ることが上げられますが、今回も隊員の様々の経歴、関係が大きく物を言いました。実際に小屋を見て頂ければ分かるかと思いますが、基本構造は、梱包材で出来ても同じですが)木枠を作り機械等を保護しています。輸入されてしまえば、木枠自体は廃棄物となり、返って邪魔者扱いされてしまいます。その大きな木枠を無料で頂き、安い運賃で特別に運んでもらいました。又、基礎、垂木等が必要な木材は、建築会社のコンクリート木枠の古材を譲って貰い、防腐剤には竹酢液、外壁塗装は個人所有の余り物を頂く…ドアや窓も頂き物で、買った物は、土台の重量ブロック、割引のトタン板に釘類…と言う涙ぐましい努力の賜となつています。又、使用した道具は各個人所有品を使い(良く皆さん、工具を持っているものです)技量は玄人はだし…(かな?)とにかく、もうすぐ完成します。



完成間近の物置

苦勞の賜ですので、皆さん、綺麗に整理・整頓して使いましょうね。



じゃがいもプロジェクト活動報告
本多 昭子

秋の収穫祭&芋煮会

期日十一月三日

里芋・サツマイモ・ヤーコンを収穫

参加者は五十六人（このうちゲスト十六家族四十五人）

ゲストの男性にもスコップで掘り起こす作業から入っていただきました。一株の里芋を子供が数人でヨイシヨ！ヨイシヨと声を掛け合って引いたり、一才半程のこどもがフカフカの畑の中を、着ぶくれした体でバランスを取りながら協力したり、トカゲや蛙、？の幼虫に触ったり楽しい構図が沢山ありました。収穫後の副産物の始末も、畑仕事の一環として皆が協力して片付けてくれました。

今年の芋煮会のメニューは①正調？芋煮②この汁で、恒例カレーうどん③衣かつぎです。

十二時三十分過ぎに無事散会することが

できました。ここ迄には、沢山の方にご協力を頂けましたことに感謝いたします。

成果の程はご参加いただきました方からのご感想です。（七面で紹介させていただきます。）



臨時ワラボッチ隊メンバー！！



どうでも良いのですが、観察舎のワラボッチが無いと寂しい、といいながらワラが手に入らなくて作れませんでした。

「あんた、いつカワラ欲しいって言っていたけど、今年はいらないかねえ。」と、城中のSさんからの電話。機械が故障してご主人がワラを田んぼに切り倒して有るから持って行っていいとの事。早速、ネイチャーセンターの渡辺さんへ連絡すると和田さんご夫婦、畑応援隊、アヤマの皆さん、急な頼みでも快く都合をつけてくれました。（臨時ワラボッチ隊？）

作りながら「Sさんには言えないけどさあ、また機械が故障しますように：なんてね」みんなで笑いながらの作業。高嶋つ

ねさん指導の下、無事出来上がりました。今年の雪景色が待ちどろしいです。ここで皆さんに朗報です！Sさんのご主人いわく、「機械は調節できっからなあ。また、言えやく」との事で、使うときは長くきつてくれるそうです。数年後？皆様の協力の下、またワラボッチができたらいいですね。（加藤 文枝）



写真上：作業風景
写真左：出来上がったワラボッチ



参加者からの
お便り

このコーナーでは、活動に参加した一般の方から頂いた感想を紹介しています。今月はじゃがいもプロジェクトとそばプロジェクトから頂きました。

そばプロジェクト感想

相川啓子・龍馬

十一月三日、5才の息子とそばがりをしました。この日は午前中芋煮会があったので、午後はヘトヘトで息子は無理かと思いましたが。しかし、そば好きの息子は鎌を持って休むことなく最後までやる事が出来ました。何でも途中で投げ出してしまいう息子も大きくなったんだなあと感心してしまいました。

私も息子もそばがどんな植物なのか、どの部分を食べるのか、どうやって加工していくのか全くわからないまま参加しました。本やテレビで知る事もあるけれど、体験して知る事、感じる事はそれ以上に価値があると思います。これからどんな事をするのか、親子で楽しみます。そうしている間にもカナヘビやカエルを捕まえて得意気にしています。家でも息子は毎日のように「今度そばはいつやるの？いつおそば食べられるの？みんなでおいしいそばをいっぱい食べようね。」と私に言います。

みなさんのおかげで自然を体いっぱい感じ、楽しい一日を過ごすことが出来ました。

龍馬君からは素敵なお便りのような感想が届きました。どんどん夢が膨らんでいるようです。

そばがいっぱいできるといいな。

そばをつくっていっぱい食べられたらいいな。

いっぱい食べてげんきになったらいいな。

いっぱい食べたべこ大きくなるといいな。

そばを食べていっぱいそばをつくらうかな。

そばを食べてみんなが大きくなろうかな。

そばをみんなで作っておいしいそばにしようかな。

みんなで作って食べようかな。

みんなでおいしいものをつくらうかな。

みんなでおいしいそばとイモをつくらうかな。

またおいしいさとイモをつくらうかな。



龍馬君が書いてくれた感想文の原稿です。
4ページにわたって書いてくれました。

じゃがいもプロジェクト感想

じゃがいもプロジェクトにもたくさんの感想を頂きました。すべてを紹介したいのですが、あまりに多いため、頂いた感想から一部紹介させていただきます。

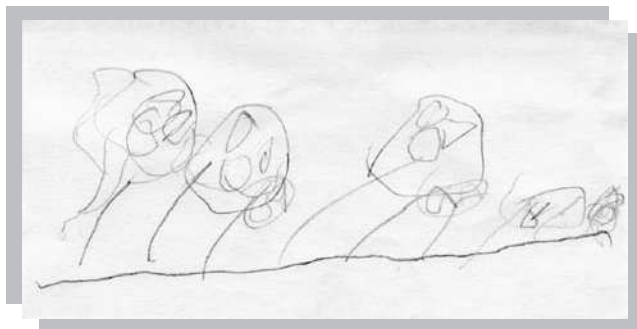
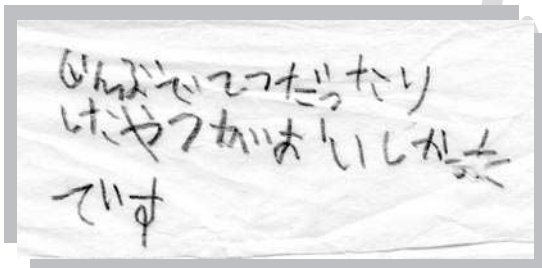
最高の食育になりました。だし、あり貴重な体験をさせていただきました。ありがとうございます。(佐々江 さとみ)

ありがとうございました。もらいました。家族で1日楽しませてもらいました。なかなか畑を体験できないので、子供にも私達にも素ばらしい体験ができてうれしかったです。またよろしくお願いします。(たむら こうき)

とても楽しくイモ堀が出来ました。子供の笑顔・毒の笑顔がたえなかつたのは夫としてうれしいです。サトイモの汁も大変おいしく頂きました。また参加したいです。

毎年楽しく参加させていただいていいます。野菜もスーパーで売られていないものばかりふだんみる機会がないので、子供達も土にふれ、自然の野菜を目にする事ができ、参加した楽しんでいます。(田中美保)

息子は遊び半分で参加させて頂きました。少し彫つては幼虫、友達を作つて、探検したり... 母はその分、いも堀りに励み、たらふく頂きました。また、次回も都合がつかましたら、参加させていただきます。



絵を描いてくれたお友達もいましたよ!



南部の自然を守る会活動報告 阿部 幸浩

「南部の自然を守る会(以下「守る会」)」では、前回八月には猛暑の中、地元農家、成井集落、水士里ネット牛久南部の役員さんと現地を歩きながら、地域の方々が抱えている課題を整理したところです。

十一月八日、守る会の事務局と打合せを行い、農家、土地改良区、地域住民、うしく里山の会の「構成員がお互いを知るため」、「活動する遠山の地域を知るため」のパンフレットを作成することになりました。また、3月には地元南部集落のクリーン作戦(例年第一日曜日の予定)が開催されます。その日に合わせて、初めての共同作業(草刈りなど)を企画することになりました。

遠山の地域の方々と交流を深める良い機会になると思います。詳しい日程等が決まりましたら、お知らせいたします。

広報委員会よりお知らせ

■次号1月号の印刷発行は十二月二十七日(木)です。

午後一時からネイチャーセンターで行います。お手伝いいただける方は一時までにお越しください。よろしくお願いいたします。



12月の里山カレンダー

※活動日は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
						1 ○そばP 9:00観察舎
2 ○巨木古木リサーチ(受) 9:00市役所玄関 調査	3 (休園日) ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	4	5	6 ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	7	8 ○里山自然観察隊 9:00市役所 (会報等原稿×切)
9 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ	10 (休園日) ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	11	12 ○雑木林畑 13:00畑	13 ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	14 ○雑木林畑 13:00観察舎畑	15
16 ○運営委員会9:00NC ○理事会11:00NC ○広報11:00NC ○エアアップ作戦 13:00NC	17 (休園日) ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	18	19	20 ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	21	22 ○巨木古木リサーチ(受) 9:00得月院P 調査 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋 ○結束町清掃9:00NC
23 (天皇誕生日) ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	24 (振替休日) ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	25 (休園日)	26 (休園日) ○雑木林畑 13:00畑	27 ○会報発送 13:00NC	28 ○雑木林畑 13:00観察舎畑	29 (休園日)
30 (休園日)	31 (休園日)					

森:観察の森, NC:観察の森ネイチャーセンター, P:駐車場, 畑:観察の森駐車場奥の畑,
コジケイ:観察の森内コジケイの林, 観察舎畑:観察の森内観察舎前の畑, ムジナ:結束町の雑木林(通称ムジナの里),
市:牛久市役所, アヤメ園:三日月橋観光アヤメ園, (受):受託事業, (休園日):観察の森休園日

編集後記

今年も残りわずかになりましたね。クリスマスや年賀状の文字が街のあちこちに見えるようになりました。さて、みなさん来年以降の目標はもう立てましたか? 人生全体で観るのが軍略(目的)、十年が戦略(目標)、一年が戦術(手段)です。

今の時代は、幕末・維新の時代とよく似ている感じがします。高度成長期から現在までは「人間中心・物質文明」の時代でしたが、これからは「地球中心・エコライフ」へと時代が動きつつあります。政権を人間から大自然に「大政奉還」していこうという動きが出てきているのですね。

こうした時代の激動期の中でどう生きるか? 私たちも人生の目標を立てることは、とても大切なことだと思います。今後十年間の人生計画を紙に書いて署名捺印し、額に入れて部屋に飾ってみませんか? 必ず実現すると決意すると、成功率が上がります。自分自身の素質・才能を生かし、時代の流れに沿った計画を立てて小さな目標から順に実現していきましょう。そして、個人個人の目標達成を合せて、私たち共通の目的「自然と人の調和」を必ず実現していくことではありませんか!

(記 安村 和真)